

## カインセツ屋敷の怪異

Dungeon 誌#156 掲載“The Haunting of Kincep Mansion”

<http://www.wizards.com/DnD/Article.aspx?x=dnd/duad/20080723b>

参考：<http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20080724>

作者：Skip Williams / 適正レベル：12 / 適正キャラクター数：5名 / 公開日：2008,07,23 / 頁数：24)

D&Dファンの前にカインセツ屋敷がお目見えしたのは2003年のこと、ウィザーズ・オヴ・ザ・コースト社のウェブサイト上に掲載された『Vicious Venues』においてである。ゲームの新しい版がリリースされるにあたり、我々はこの屋敷を新たな角度から見直しつつ、ここで昔ながらの事件を起こそうと考えた。

『カインセツ屋敷の怪異』は5人の12レベルキャラクター用にデザインされたD&D4版のアドベンチャーである。

### 冒険の背景

この屋敷は、かつてはカインセツ一族の所有する荘園屋敷だった。この一族は由緒正しく周囲から敬われた貴族だったが、政治的にはさほど有力ではなかった。相当に裕福だったにもかかわらず、カインセツ一族は質素な暮らしをし、贅沢を楽しむことをせず、ありとあらゆる華美を避けた。一族の暮らす家は大きかったが質実剛健そのもので、屋敷をとりまく果樹園の中にすっぽりと隠れてしまっていた。屋敷には小さな霊廟があり、一族の人々はそこで最後の安息を得るのだった。

カインセツ一族がその誇りとしているのは、個々の世代はそれぞれに自分自身の手で生計(たつき)を立てねばならぬという家訓であった。わずかな相続分だけを元手にして一族のもとを旅立ち、商売や冒険、あるいは公僕として働くなどして生きていくのだ。しかしここ数年、一連の不幸な事件や災害のせいで、カインセツ一族の最も若い世代はすっかり姿を消してしまった。多くの人たちは、カインセツ一族は零落し、死に絶えてしまったのだと信じていた。

実のところ、一族の末裔のうちたった一人、ジャコバクス・カインセツ 彼は冒険者兼傭兵として異国の地へ旅していたのだが だけは富を手にしていて、やがて彼は一族の屋敷へもどってきたが、そこはすっかり荒れ果てていた。彼は現役を引退し、その膨大な書籍のコレクションとともに屋敷に住み着いた。ジャコバクスは学者兼隠者となった。彼は昼も夜も文章を読むのに費やし、ろくに飲み食いも眠りもしなくなった。ある午後、彼がお気に入りの肘掛け椅子に腰掛けて読書をしている最中に、とうとう老齢が彼を食い尽くしてしまっただけでなく、彼は読み続け、膨大な量のノートを取り続けた。ジャコバクスはゴーストになっていたのだ。

カインセツの古い屋敷は、村や街のはずれの丘の上の、一番見晴らしの良い場所にある。さもないと都市の郊外にあるというだけでもよい。屋敷の背後には、かつてはきちんとした庭園だったものの名残、育ちすぎた生垣迷路、そして石造りの霊廟がある。どんな場所に位置するにせよ、屋敷のすぐそばに墓所があるということで、この屋敷はずいぶん不吉な場所に感じられるに違いない。

## ジャコボックス・カインセツプ

ジャコボックスはこの屋敷と土地に縛り付けられている。特に生前彼が書籍を溜めに溜め込んだ巨大な図書館に。死んで後でさえ、彼は自分が切望した知識をかき集めつづけている。自分の能力を最大限に使い、また、この屋敷に宿を借りる数少ない旅人たちの助けを得て。この目的に於いて、カーリーと彼女の取り巻きたちは彼の素晴らしい助手となり得ている。

生前、ジャコボックスはウィザードで、同時に職業冒険者だった。歳を重ねるにつれ、彼は知識への渴望を募らせるようになり、凄まじい書籍の蒐集家となったのである。彼はまさにその死の瞬間まで夢中になって読み続け、定命の世界にこんなにも多くの本を読まずに残してしまったという深い悔いのゆえにゴーストになったのである。ジャコボックスはエキセントリックではあるが、大体において無害な存在である。本を手にかけている限り、彼が誰かを害しようとするのはほぼない。PCたちが彼にもっと読むものを提供しようとするなら、彼はまたとない味方とさえなりうる。この古いゴーストはいくぶんか魔法の力を秘めており、また儀式書も1冊持っている(コレクションの中にはマジック・マウスおよび、ゴーレムや護衛を作り出したり動かしたりする儀式が含まれているべきである)。また、多くの歴史に関わる事項や秘術に関わることについて、彼はまさに知識の泉ともなるのである。

## 冒険の概略

ジャコボックスは学者として暮らしているだけだったが、大きくて壊れていない建物というものは、それだけで無断居住者を惹きつける。年月がたつうちに、この場所にはモンスターの集団がいくつか住み着いた。が、家主のゴーストや近隣の有力者たちを悩ませるにいたった“新参者”たちは最終的には追い出されてしまい、ジャコボックスはまた自分の本とともに独り過ごすようになるというわけである。

もっとも最近住み着いた“客人”は、ヴァンパイア・ロードのカーリーにヴァンパイア・スポンとグールの一団、それにワーウルフとダイア・ウルフが数体ずつである。これらのクリーチャーはジャコボックスと関わらずにいたわけではないが、ジャコボックスの隣人としてはそれなりにやっていける状況を築いている。今のところジャコボックスはこの招かざる客人のことを気にしてはおらず、むしろ自分のプライバシーを守るには彼らがいたほうが良いと考えている。PCたちがこの事件に巻き込まれるのは、土地の有力者にあの廃屋を調べてきて欲しいと頼まれたためである。

PCたちは野放図に伸び広がった果樹園を抜けて屋敷に近づく。木々の間を抜ける小道を通過して正面玄関に向かってよいし、屋敷の裏手の絡まりあった庭を抜けてもよい。彼らはカーリーの手勢のワーウルフたちと対峙することになる。彼らは詮索好きの侵入者たちを屋敷から遠ざけておくためにそこにいるのだ。PC一行はワーウルフを捕らえ、尋問を試みることもできる。その場合、ヴァンパイアが存在について事前に知り、また、ブービー・トラップの仕掛けられた入り口を抜ける方法を見つけることもできるだろう。

ジャコボックスは屋敷の正面玄関を飾っていた石像を動けるようにし、危険な門衛に変えている。適切な合言葉を言えば、PC一行は門衛と戦わずにすむ(合言葉はワーウルフから聞き出すことになるだろう)。あるいはオオカミに化けてもそこを通り抜けることができる。さもなければ彼らはこの疲れを知らぬ門衛を破壊せねばならない。戦闘の物音は、他のモンスターたちの注意をひきつけてしまうだろう。もし裏口を抜けようとするなら、PC

たちはアンデッドに変装せねばならない。さもなければ、また別の動く石像ひと組と対峙する破目になる。

崩れた屋敷をPCたちがさらに探索しようとするなら、彼らはさらなる危険に晒される。厩舎には動く荷車（アニメイテッド・キャリッジ）がある。生垣迷路にはグールが住み着いている。カーリーと彼女のヴァンパイア・スポンは古い霊廟に住んでいる。カーリーは自分用の棺を霊廟に置いてあり、予備を図書室のテーブルの下に置いている。ジャコバクスは二つの棺がそれぞれどこにあるか知っている。最終的にPCたちは今も読書を続けるジャコバクスと会うことになる。

PCたちがカーリーを何とかした上でジャコバクスを倒すか、あるいはジャコバクスと和解するかすると、冒険は終了である。カーリーが倒されると、その仲間だったワーウルフはこの場所を出てゆく。ヴァンパイア・スポンたちはこの屋敷のほかにも棺を置いている場所がないのでここに留まらざるを得ない。ジャコバクスは（もし彼が倒されずにいたならば）自分の手でこれらのクリーチャーを破壊してしまう。彼はこれまで、吸血者どもがこの屋敷に住み着いては、要らぬ注意を惹きつけるという経験をさんざんにしてきたのである。

PCたちがジャコバクスを破壊しなかった場合、ゴーストは相変わらず読書を続け、そしておそらく幾分かには自分でも著作を行なう。本屋や他の学者達と交渉するための代理人として、彼は喜んでPCたちを雇ってくれる。もしPCたちがジャコバクスを倒したなら、彼らは自由に図書室をあさることができる（レベル12の宝物が得られる）。

屋敷にはそう多くの宝物はないが、カーリーはそこそこの富を蓄えている。詳細についてはP.51の霊廟（mausoleum）の項を確認すること。もしPCたちが雇われた理由がいなくなった人々の救出であった場合、PCたちは次のセクションで説明するとおり、救出の報酬を受け取ることになる。

## 冒険の導入

屋敷の新しい住人は、さまざまな方法でPCたちの注意を惹くことになる。

**狩人たちの怪談：**最近、一団の狩人が丘を訪れた。彼らは狼の皮を獲ろうとしていたのだ。が、ここで見つけた狼たちはひどく凶暴だった（実はそれはワーウルフや、そのペットのダイア・ウルフだったのである）。狩人たちは屋敷に逃げ込もうとしたが、動く石像が彼らを追い払った。また、よそ者がやってきたというので、カーリーも援軍として呼び出されてやってきていた。

生き残ったものたちは屋敷から一番近い町までほうほうの態でたどり着き、化け物じみた狼、飛び跳ねる石像、そして影から見つめる悪魔じみた瞳などの血も凍る話をした。PCたちはその話を伝え聞くか、あるいは直接聞いて、そして自分達でそこを調べてみようかと決める。もし彼らが自分からそこに行こうとしない場合、土地の有力者が彼らを雇って件の屋敷を調べてきてくれと言う。

**クエスト報酬：**有力者に情報を伝えた場合に700XPおよび250gp。

**攫われた人々：**ある晩、とあるキャラバンが丘の麓で宿営した。薪を集めに果樹園に入ってしまった一団は、そのまま戻ってこず、そうして狼たち（に加えて、姿の見えない射手が数名）が、夜の間キャラバンを襲った。朝までに多くが犠牲になり、そして数名が謎めいた失踪を遂げた。生き残った人々は近くの町まで逃げ、誰も丘に近づいてはならないと警告した。PCたちは謎の襲撃について調べるため、あるいはいなくなった人々を救い出

すため、もしくはその両方の目的で雇われることになる。

いなくなった人々は、次々にカーリーのドミネイティング・ゲイズの犠牲になったものであり、屋敷の中に囚われてカーリーの新しいスポーンとなるべく待たされている。

**クエスト報酬**：囚われ人たちを助けた場合、4,000XPおよび500gp。

**いなくなった子ども達**：カーリーはこの屋敷を、食料や新しい手勢を得るために周囲の町に潜入するための基地として使っている。彼女の吸血行為は気付かれはじめている。さらに悪いことに、カーリーは子ども達を何名か、家から誘い出している。犠牲となった子供たちは、家を出るなら持って行くはずのものを何ひとつ持たずに失踪しており、そのせいで彼らの失踪はさらに周囲の心を痛めることになっている。

恐慌状態に陥った家族達は助けを求め、子ども達を探し出して助けるためにPCたちが雇われる。子供たちの失踪と夜間の襲撃は、どうやら件の古い屋敷を中心として起こっているようだ。

**クエスト報酬**：いなくなった子ども達がどうなったか首尾よく調べをつけると2,500XPおよび500gp。誰かを助け出すことができたならさらに1,500XP。